

「伊努」という名の初見は、大化元年（六四五）出雲国出雲郡伊努郷となった事から始まります。

また 出雲国風土記（天平五年（七三三））には「伊努社」の名があり、神龜三年（七二六）に伊農（イヌ）を伊努に改めたという記述があります。

理由は国引きした意美豆努命の子「赤倉伊努意保須美比古佐和氣農命の社がこの郷に在った」ことによるそうです。

また、延喜式「神名帳」（延長五年（九二七））には「伊努神社」の名があります。

このように、「伊努」の名は飛鳥時代から当地に存在しますが、「伊努・イヌ」と名付けられた一説がありますのでご紹介します。

ある古老の話しによりますと、日本にまだ仏教の教えがない時代、楯縫郡北浜に流れ着いた異国の仏僧者達が、十六善神の御神託に従い般若教を広めるために北山を越えようとした時の事です。

異国の仏僧者達は北山の山中で狼の群れと遭遇しましたが、般若経の読経により、狼は犬（イヌ）に生まれ変わって、仏僧者達の通る道を切り開いたそうです。

犬達によって作られた道は、鰐淵寺から伊努神社に通じる参道です。それが、いつしか犬谷（イヌ谷）と呼ばれるようになりました。そして時が経って、そのイヌ谷が「伊努谷」と呼ばれるようになったそうです。

「伊努」の道が、わが国への般若経伝来の聖なる道かと思うと何か心を打たれるのを感じます。



★付記

仏教は、紀元前六世紀頃に、インド、ネパール国境付近のシヤカ（釈迦）族の王子として生まれた釈尊の教えです。

日本ではまだ縄文時代で、竪穴式住居に住み、狩りや植物などの採集などで生活していた時代です。

その仏教は、ガンダーラやバミヤンからシルクロードの長い旅をして、五三八年に百濟から日本に伝わったとされています。